



第38回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

特集

ふくしま駅伝

前編

只見町チームを支える、スタッフ

舞台裏の伴走者

11月15日(日)に開催される大会に向けて、週2回、選手たちは学校や仕事終わりに集まって練習をしています。駅伝は各区间を走る選手がいて初めて出場できますが、チームには陰で選手をサポートするスタッフたちの存在が欠かせません。今回の特集では、只見町チームを支えるスタッフの皆さんにスポットを当てて、ふくしま駅伝や町を代表して走る選手への思いを聞きました。

Interview①



鈴木 ゆかさん(只見)

私は4人の子ども全員が、ふくしま駅伝に参加していました。長いこと保護者として携わっていたので、チームを運営する只見ランナースに誘われて、数年前から正式にスタッフとしてサポートするようになりました。

今年ではできるだけ繰り返し上げスタートせずに、タスキを繋いでもらえたらと思います。

「頑張って走れば、次の区間の選手が待っている」駅伝ならではの醍醐味を、選手たちには経験してほしいです。私は子どもの代からたくさん楽しませてもらったので、その恩返しの気持ちで、今の選手やそのご家族に、ふくしま駅伝を楽しんでもらいたいです。



2



1



4



3

1_1キロあたりのペースを設定して走ります 2_目黒英樹監督(写真右)から練習の心構えを聞きます 3_スタッフは選手ごとのタイムを取りながら檄を飛ばします 4_渡部一昭コーチ(写真中央)から走りのコツを教わります

Interview②



渡部 一昭さん(小川)

朝日中学校出身で、1000
円走で全国入賞しました。只
見町に恩返ししようと、培っ
た陸上競技の知識や技術を活
かすため、陸上指導者と選手
の体調管理やケガ予防などを
扱うアスレチックトレーナー
の資格を取得しました。ふく
しま駅伝には約20年前からコ
ーチとして携わっています。
チームのコンセプトは「町
単独で出場すること」「楽し
く明るく走って、健康な身体
づくりをすること」です。競
技ではタイムも大切ですが、
加えてみんなから好かれる、
応援される、支えてもらえる
人間になることが、学力も運
動も最大限高めるコツだと、
子どもたちには伝えています。

Interview③



目黒 文雄さん・ゆかりさん(只見)

平成7年から選手として参
加して、妻と次男と3人でも
出場しました。練習で中高生
と知り合えて、楽しい思い出
です。スタッフに回ってから
は、練習前にお腹を満たして
もらおうと中学生に夕食を提
供していて、今はお弁当を作
っています。(文雄さん)

中学生から大人まで、幅広
い世代が同じ目標を目指すこ
とはなかなかないことです。
一生の記憶に残る大会なの
で、選手の皆さんには、体調
に気をつけてベストを尽くし
てほしいです。

(ゆかりさん)